



かわちながの 働ライフ

KAWACHINAGANO HATA-LIFE

河内長野市で働く若者の仕事と暮らし

12

よりよいモノづくりを

株式会社吉年の東條 隼人さん

可鍛鉄の製造において市内屈指の老舗企業である株式会社吉年よとしに入社して4年目、技術課模型係で勤務する東條隼人さん。

高校3年生の時、好きな野球を続けるため進学するか、就職するかで悩みましたが、車のプラモデルなど模型を作ることが好きだったこともあり、製造業に興味を持ったことがきっかけで働くことを決意。地元で働きたいという思いもあり、同社に入社しました。

入社後は、自動車部品や水道管の継手などの金型の修理等を担当。砂で型とった鑄型に溶解した金属を流し込むことで製品が完成します。型となる砂の状態が製品の良し悪しに直結するため、日々の気候や湿度の変化には敏感になります。砂に含まれる水分量によっては製品の中に気泡が入ったり表面がざらついてしまったりして不良の発生に繋がってしまいます。「以前会社に損失を出してしまった経験から仕事のスピード

感も大事ですが、不良品を出さないためにも、基本に忠実に、丁寧な仕事を心がけています。」と東條さんは言います。最近では、不良率の高かった製品を、今までの経験による改良で大幅な改善に成功したとのこと。これからも、製品の不良率を下げることを目指して、日々少しずつ改善できることを積み重ねながら、よりよいものづくりに励みたいとさわやかな笑顔で語ってくれました。



取材協力 株式会社 吉年

上原西町 16-1 (☎ 53-3121)

1718年に鑄物製造を開始、創業300年を超える市内屈指の老舗企業。創業300年記念モニュメント(上写真)も製作。可鍛鉄の管継手をはじめ、自動車部品・硝子金具などの各種産業機械部品を製造・販売。



軟式野球日本代表を目指して

草野球チームに所属し、休日は毎週野球をやっています。野球が大好きな家系で育ち、子どものころから父に習っていました。昨年はSWBCジャパン(クラブ軟式野球日本代表)の関西代表にも選ばれ、月1回の練習に参加し、日本代表を目指して頑張っています。車も好きで、普段乗る車とは別に趣味の車をいじったりしています。彼女には呆らまれていますが(笑)。滝畑ダム周辺をドライブしたり、夏にはバーベキューをしたりと河内長野を楽しんでいます。

